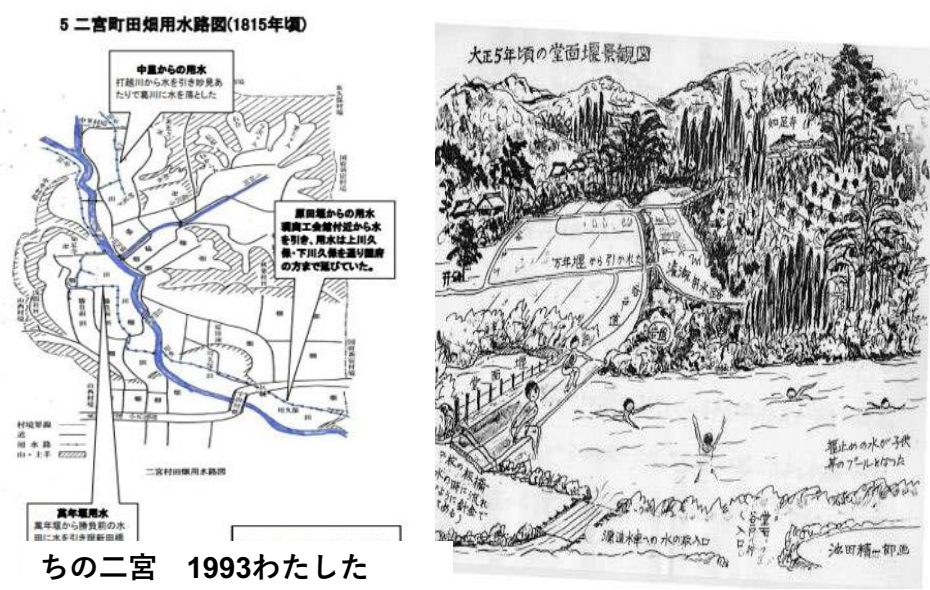


# 1 昔の葛川

左は1815年頃の図  
水田・用水路(大小5本以上)昔の二宮は水田が広がっていた  
右は水遊びの様子 1916年頃の堂面堰(今の花月橋)でのこの年の人口は7,000人



# 2 葛川の水害

第2章 河川の現状と課題  
第1節 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する事項  
【水害の発生状況】

流域における過去の被害としては、昭和46年8月の台風23号、25号、26号、昭和58年8月の台風5号、6号及び平成2年8月の集中豪雨による浸水被害が挙げられる。  
また、近年では、平成25年4月の豪雨や平成26年10月の台風18号において、浸水被害が発生している。

表 2-1 葛川・不動川流域の主な水害

発生年月日	原因	雨量 (mm/h)	浸水被害 (戸)
昭和10年10月	不明	不明	292
昭和46年8月	台風23号	不明	田畑64ha
昭和58年8月	台風5号、6号	30.0	120
平成2年8月	豪雨	78.5	33
平成16年10月	台風22号	43.0	8
平成25年4月	豪雨	50.5	15
平成26年10月	台風18号	72.0	1

出典：気象庁平塚観測所（雨量）  
国土交通省水管理・国土保全局「水害統計」（浸水被害）  
※雨量データは気象庁平塚観測所データより抽出。  
※主な水害は国土交通省水管理・国土保全局「水害統計」より抽出。  
※浸水被害の戸数には、内水被害を含む。



# 葛川水系河川整備計画 2019年 p10



2024 830 台風10号 内輪橋付近

# 葛川の親水化を求めて 2024 12 20

## 3 葛川河川改修が完成しても浸水被害は収まらない？

2023年11月「河川改修工事について」において「暫定工事に取り組む」と広報。ちなみに計画目標流量の75%。

○葛川水系河川整備計画 2019年 p14  
「年超過確率1/4(時間雨量50mm)」  
第3節洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項  
葛川においては、年超過確率1/4(時間雨量50mm)の規模の洪水を安全に流下させることを目標とする。  
\*年超過確率1/4とは、1年間のうちに発生確率が25%であることを意味する



## 4 「流域治水」という考え方

保水・遊水など 総合的に利用、整備、調整  
「生きのびるための流域思考」(ちくまプリマ一新書)p25 岸由二より

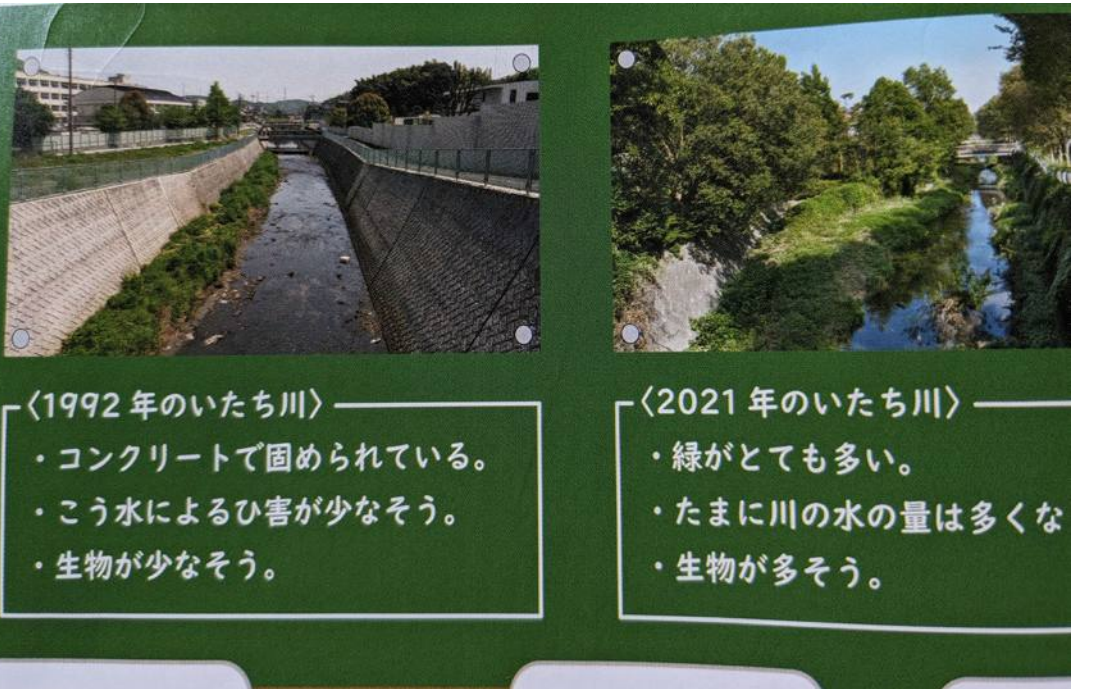
これまでの行政の仕事の分野では、流域生態系において、河川の構造を改変・整備し、また下水道の構造も工夫して水害を防止することが「治水」と呼ばれてきました。  
しかし、行政の制度の枠を越えて素直に考えれば、河川や下水道の設備だけではなく、山地・丘陵、森、田畑、池、町等々における保水・遊水の力など、流域地形・流域生態系の諸要素の効果を総合的に利用、整備、調整することで治水目的を達成する方式こそ、治水の基本、となつてよいに決まっています。  
2020年、日本国が宣言した「流域治水」は、そのような総合的な治水のことを指します。

## 5 「多自然川づくり」自然の多様性を重視し人間を流域の生物の一員と考える 「親水」水や川に触れることで水や川に対する親しみを深めること

2017年3月24日 町議会は 具体的 文言「魚道及び遊歩道の設置を入れること」を内容とする陳情を全会一致で採択。同時付けで県に意見書を送付

第3節 河川環境の整備と保全に関する事項  
河川環境の整備と保全に関しては、河川は身近な自然とふれあえる貴重な公共空間であり、人々に安らぎや潤いを与える場所であるため、「多自然川づくり」として、河川が本来有している生物の良好な生育等環境に配慮し、あわせて美しい自然景観を保全するなど、多様性のある河川環境の整備と保全に努める。また、自然とふれあいの場としてだけでなく、環境学習や人々との交流の場としても利用できるよう、治水対策とともに、流域自治体や地域の方々と連携を図り、自然環境や、景観、親水性に配慮した河道や護岸の整備を行うなど、人と自然にやさしい川づくりを進める。  
葛川水系河川整備計画 2019年 p20

## 6 私たちの選択



小学校6年理科教科書「大日本図書」より